

雅楽の音色や響きを味わう

伝統芸能コース

雅楽



講師 廣瀬 信夫
ひろせ のぶお

略歴

雅楽研究家

1993年、大阪教育大学大学院教育学研究科音楽教育専攻修了(教育学修士)。日本音楽学会・東洋音楽学会会員。馬淵卯三郎教授(現・大阪教育大学名誉教授)のもと、雅楽を音楽学の立場から研究。伝統的な現行雅楽の演奏の他、現代曲や古楽譜による復原演奏も行なう。現在、大阪教育大学・大阪芸術大学非常勤講師。

advice points

- 会場は、できれば正座のできる和室か、カーペットの部屋が望ましい。
- DVDデッキとオーディオ機材が必要。

より発展的なワークショップを実施するために

- 社会科を受け入れ科目とし、雅楽の時代背景がわかる日本史とあわせて学ぶ。
- 龍笛・箏以外の楽器も体験してみる。

目的

- ・ 雅楽の歴史的背景や、音楽の理論を学ぶ。
- ・ 雅楽の楽器や楽譜に触れ、音色や響きを味わい、雅楽への理解を深める。

効果

- ・ 演奏を体験して、伝統楽器への親しみを深め、感性を養う契機とする。

到達点

- ・ 管楽器の楽譜が読めるようになる。
- ・ 唱歌(しょうが)を唄えるようになる。
- ・ 合奏の構造を理解する。



事前学習

雅楽についての基礎知識を予習しておく。

ワークショップの流れ(2日間<2コマ/日>)

雅楽のジャンル「国風歌舞」「唐楽(とうがく)」「高麗楽(こまがく)」「歌いもの」について解説



DVDで管弦「越天楽(えてんらく)」を鑑賞し、笙(しょう)・箏(ひちりき)・龍笛(りゅうてき)ほかの楽器について説明



雅楽の音名「十二律」の説明と、龍笛と箏の唱歌演習



龍笛の按指法(指使い)を参考にして、「越天楽」を龍笛演習



箏のリード部分の舌(ぜつ)の説明と、箏演習



笙・箏・龍笛の演奏形態の解説と、三管の独奏を鑑賞



舞楽と高麗笛の解説と、合奏鑑賞及び舞楽鑑賞

事後学習

雅楽の音色について生徒同士で感想を述べあう。

…ワークショップを実施して…

講師の感想

生徒たちは、管楽器のシンプルな構造に驚き、またその構造ゆえに音を出すのが難しいことを知った。それだけに、音が出せた時の喜びは大きく、自然に笑顔になっていた。CDやビデオなど、スピーカーを通して聞く音ではなく、雅楽器の芸術的というより野性味ある荒々しい「生の音」を、体全体を使って感じ取ってくれたことと思う。

先生の感想

理論や歴史の説明・演奏鑑賞・楽器の説明・実体験と流れが工夫されており、生徒も参加しやすかったと思う。専門的な知識もわかりやすく説明していただけた。日常は馴染みの少ない雅楽の楽器に触れ、生の演奏を聴き、普通では見られない舞楽を鑑賞することは、たいへん貴重な体験となった。

生徒の感想

- ・ 日本文化の深さを実感した。たまには雅楽のような音楽を聞いて心を清めたいと思った。
- ・ 触ったことのない楽器を演奏させてもらって、貴重な体験だった。「笙」の音色がとてきれいで一番印象に残った。
- ・ 初めて雅楽を聴いた。プロの先生は、長い舞を覚えているのがスゴイと思った。演奏するときの集中力が素晴らしいと思った。